



CITIZEN'S PLAZA

市民のひろば

市民の皆さんからの投稿作品をご紹介します！

みんな注目！

[投稿者]

渥美半島観光
ビューロー
菜の花部会
(☎23-3516)

田原市の菜の花が、東北に笑顔を届けています！

渥美半島観光ビューローでは、東日本大震災の被災地の一つである岩手県大槌町^{おおつち}を菜の花で支援しています。

今から6年前、平成23年3月11日に起こった東日本大震災。大槌町でも、街の大部分が津波で流され、多くの方が亡くなりました。津波は市内を流れていた大槌川もさかのぼり、かつては穏やかに流れていた川はがれきでいっぱいになってしまいました。

その荒れ果ててしまった大槌川の河川敷に、菜の花を満開に咲かせて、震災で傷ついた人々の心を癒したいと、立ち上がったのが地元に住む金山文造さんでした。金山さんが立ち上げた「大槌菜の花プロジェクト」を支援するため、全国から多くのボランティアが集まりました。愛知県からも中部国際空港セントレアの職員が支援に立ち上がり、「愛知県で菜の花といえば渥美半島・田原市!」ということで、声が掛かりお手伝いすることになりました。

それ以来、菜の花の種を届けたり、現地に赴いて菜の花の生育指導を行ったりしています。平成24年度には渥美農業高校や市内の企業からも取り組みに賛同をいただき、肥料や農機具を寄付しました。

今年度は6月に現地を訪問し、昨年の菜の花まつりで野菜などを販売して得た寄付金を「大槌町社会福祉協議会」に寄付しました。大槌町の方は「全国の皆さんのおかげで少しずつ復興が進んできている」と喜んでいました。

渥美半島でも1月から菜の花まつりが始まります。一面の菜の花畑を楽しみに、県内外から多くの人々が訪れます。

この田原市の菜の花が、遠く東北の地にもつながって人々を笑顔にしています。本市の花でもある「菜の花」。これからも、菜の花が多くの中で笑顔を届けてくれることを願っています。



▲満開の大槌川沿いの菜の花



▲津波で流された旧市街地



▲菜の花の手入れをする金山さん



▲全国から集まるボランティア



▲集まった寄付金を受け取る金山さんら